

2011年11月8日

2012年3月期第2四半期 (第39期) 決算IR説明会

株式会社メイテック

〒107-0052

東京都港区赤坂 8-5-26 赤坂DSビル

TEL 03-5413-2600 FAX 03-5413-2622

URL : <http://www.meitec.co.jp>

I .前期業績の訂正

<2011年3月期 業績の訂正>

- 2011年3月期に計上した従業員の賞与及び法定福利費合計で412百万円の差異が判明。

※主因:危機対応策の一環として実施した社員賃金削減策解除による還元支給手続きの際の計上ミス。

- よって、以下のように2011年3月期決算を修正した。

【連結】 P/L

(単位:百万円)	訂正前	影響額	訂正後
売上高	61,790		61,790
原価	48,462	+369	48,832
販売管理費	10,294	+42	10,337
営業利益	3,032	▲412	2,620
経常利益	5,000	▲412	4,588
法人税等調整額	△589	▲164	△754
当期純利益	3,937	▲247	3,690

【連結】 B/S

(単位:百万円)	訂正前	影響額	訂正後
うち流動資産	37,496	+164	37,661
資産合計	55,549	+164	55,714
うち流動負債	9,603	+412	10,016
負債合計	18,207	+412	18,619
純資産合計	37,342	▲247	37,094
うち利益剰余金	12,653	▲247	12,405
負債・純資産合計	55,549	+164	55,714

2

2011年3月期に計上しました従業員の賞与及び法定福利費について、合計で4億12百万円の差異が判明した部分を、訂正させていただきます。

前期社員賃金の削減策を実施しましたが、想定以上に業績を改善する事が出来たので、前期末に社員賃金の削減部分を社員に還元致しました。

その際の経費処理のミスが判明し、今回訂正させていただきます。

具体的なP/Lの修正内容は、表に記載の通り、経費処理のミスの為、売上高に訂正はありません。

原価と販管費が合計4億12百万円増加しますので、営業利益が4億12百万円、同じく経常利益も4億12百万円減少致します。

当期純利益は、法人税等調整額の修正により、2億47百万円減少します。

B/Sの修正は、当期純利益の2億47百万円の減少部分が純資産部分に反映されます。

当期の第1Q財務諸表は、B/Sのみ前期業績の訂正を反映しています。

当期のP/Lの訂正はありません。

誠に、申し上げますませんでした。

Ⅱ. 連結業績の概況

<業績【連結】：2012年3月期 第2四半期累計>

(単位:百万円)		売上高	営業利益	経常利益	当四半期純利益	
第2四半期 累計	連結	実績	31,937	2,328	2,350	1,295
		前期実績	29,357	662	2,087	1,615
		対前期比 増減率	8.8%	251.3%	12.6%	△19.8%
	単体	実績	25,256	1,944	2,262	1,356
		前期実績	22,698	239	1,573	900
		対前期比 増減率	11.3%	712.2%	43.8%	50.5%

<参考/業績予想>

(単位:百万円)		売上高	営業利益	経常利益	当四半期純利益
2011年5月12日 期初予想	連結	32,500	2,200	2,200	1,000
	単体	25,500	1,800	2,100	1,100

(単位:百万円)		前四半期 連結累計期間	当四半期 連結累計期間	前年同期比増減額	前年同期比増減率
助成金収入		1,401	13	△1,388	△99.0%

連結業績の概況です。

2012年3月期第2四半期累計期間の連結業績は、売上高が319億37百万円と前年同期比8.8%の増収となりました。

営業利益は23億28百万円と前年同期比251.3%の増益、経常利益は23億50百万円と前年同期比12.6%の増益、当四半期純利益は12億95百万円と前年同期比19.8%の減益となりました。

単体もほぼ同様の実績ですが、当四半期純利益も増益です。

上期の売上高は、概ね期初予想に近い結果となりました。

経常利益、当期純利益が、営業利益に比べ、前年同期比で大きな変化がない理由は、表に記載のとおり、雇用調整助成金収入が前期14億1百万円から当期13百万円へ大きく減少した為です。

当期は、メイテック、メイテックフィルダーズが、雇用調整助成金の受給申請を行っておらず、子会社のアポロ技研のみが受給申請を行っております。

連結の当期純利益が減益になっていますが、利益の改善に伴う税務費用等の増加によるものです。

<市況の概況：2012年3月期 第2四半期累計>

1. メイテックグループの主要顧客である製造業全体の状況

- 当社の主要顧客である日本の大手製造業各社においては、東日本大震災による、電力不足・サプライチェーンの混乱等によって、国内生産活動に一定の影響を受けざるをえなかったものの、リーマンショック後に再開した技術開発投資を継続する企業が多かった。
- ただし、残業規制や作業日のシフト(休日変更)等を実施する企業が多かった。
- また、急速な円高等によって、大規模な技術開発投資をはじめ、コストを抑制する動向が強かった。

2. 本業(技術者派遣事業)の概況

- 顧客企業の多くが技術開発投資を継続されていることから、前期に引き続き、堅調に成約を進めることができた。
- ただし、コストを抑制する動向が強くなっていることから、想定以上に、契約の終了も発生した。

第2四半期の市況の概況ですが、まず、メイテックグループの主要顧客である日本の大手メーカー、各社全体の状況について3点を記載しています。

1点目は、当社の主要顧客である日本の大手製造業各社は、東日本大震災による電力不足、サプライチェーンの混乱等によって、国内生産活動に一定の影響を受けざるをえなかったものの、リーマンショック後に再開した技術開発投資を継続される企業が多かったと認識しています。

2点目に、残業規制や作業日のシフト(休日変更)を実施する企業が多かったと記載しています。

前回の説明会でコメントしましたが、震災による電力不足・サプライチェーンの混乱等により、お客様の生産活動が停滞し、業績の落ち込みが予想されたことから、新年度の技術開発投資予算執行への影響を懸念致しましたが、実際には、技術開発投資を継続されるお客様がほとんどでした。

その一方、電力不足により、残業規制や休日変更の影響が当社事業にも出ています。

特に、2Qの電力需要のピーク時に、残業規制や休日変更により、作業時間を減少した為、当社エンジニアの稼働時間が減少致しました。

3点目に、急速な円高等によって大規模な技術開発投資を始めコストを抑制する傾向が強かったと記載しています。

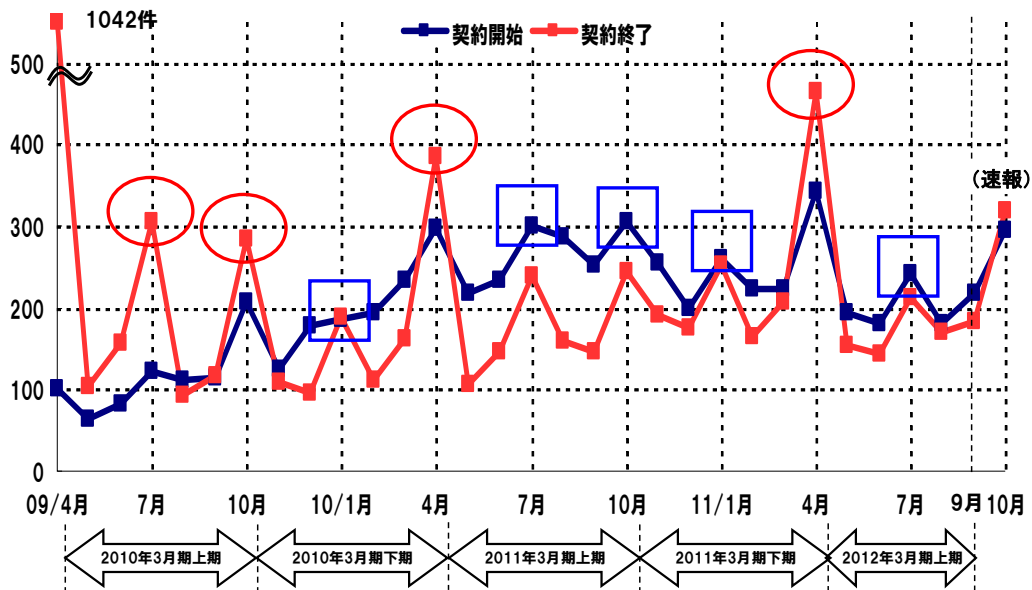
震災前は、技術開発投資に積極的なお客様の動向を、営業の感触として持っていましたが、震災やその後の円高から、積極的な技術開発投資の動きが少し鈍ったと感じています。

こうした動向をふまえ、技術者派遣事業の概況につきコメントしています。

顧客企業の多くが技術開発投資を継続している為、前期に引き続き堅調に成約を進める事が出来ましたが、コスト抑制の動向が強くなっていることから、想定以上の契約終了が発生したと記載しています。

想定以上に契約終了件数が多かった実態を、次の6ページのグラフに記載しています。

<契約実績推移【MT単体】：2009/4月～2011/10月>



前期の4月は年度変更に伴うお客様の予算見直しの影響により、契約の終了と開始の大きな山が来ています。

前期は4月以降、契約終了数が増加傾向にありますが、青色である契約開始数が契約終了数を上回っている為、稼働率が改善している事が分かります。

この前期の状況に比べ当期の特徴は、4月の年度変更に伴う契約終了数が、前期の約400件より若干増加し、約470件となっています。

震災前は、当期の4月の年度変更に伴う契約終了数を、営業の感触として、前年同様の約400件と想定していましたが、震災の影響により約70件増加しました。

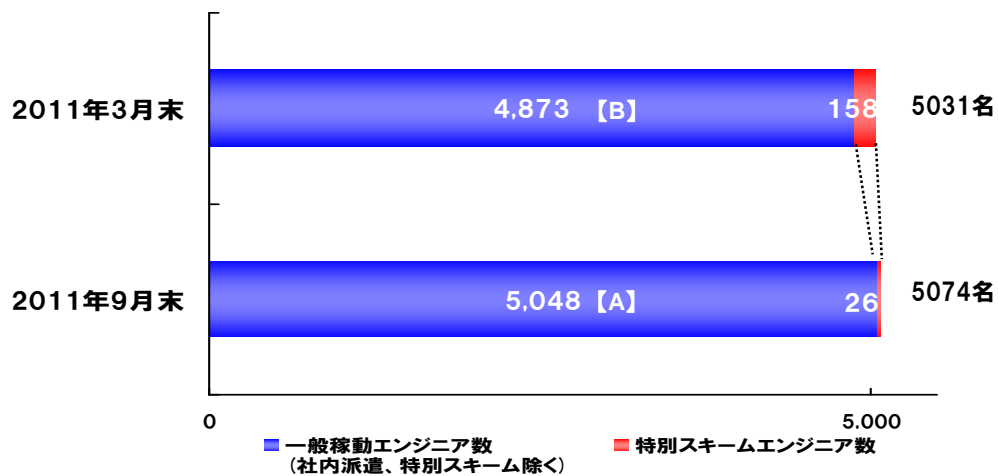
但し、4月以降は、契約の終了を契約の開始が上回っております。

期初は、契約終了数が前年対比で減少することを想定していましたが、前年とほぼ同じ水準となっております。

要因は、お客様のコスト意識の高まりにより、契約期間が短期化する傾向にあり、3ヶ月毎に契約を更新されるお客様が非常に増えている為です。

これは、四半期単位で予算を厳しく管理するお客様が増加している為であり、必要な時に、必要な人数分、外部戦力を活用する方向に切り替わってきています。

<稼働人員数の内訳【MT単体】>



2011年9月末の稼働人員数は、前期末に比べて43名増であるが、特別スキーム（主に若年層を対象とした低レート派遣）の数が、158名から26名に改善していることから、本来の業務領域における稼働人員数は、実質的には更に175名増（[A]-[B]）となっている。

7

上期の契約終了と開始の結果、稼働人員数が増加したのか、減少したのかをグラフで表しています。

前期末の3月末の稼働人員数(売上高に対応しているエンジニアの数)は5,031名でした。

当期の9月末の稼働人員数は、前期末の3月末より43名増加して5,074名となり、若干改善しています。

このグラフでお伝えしたいことは、赤い部分、社内では『特別スキーム』と呼んでいる部分です。

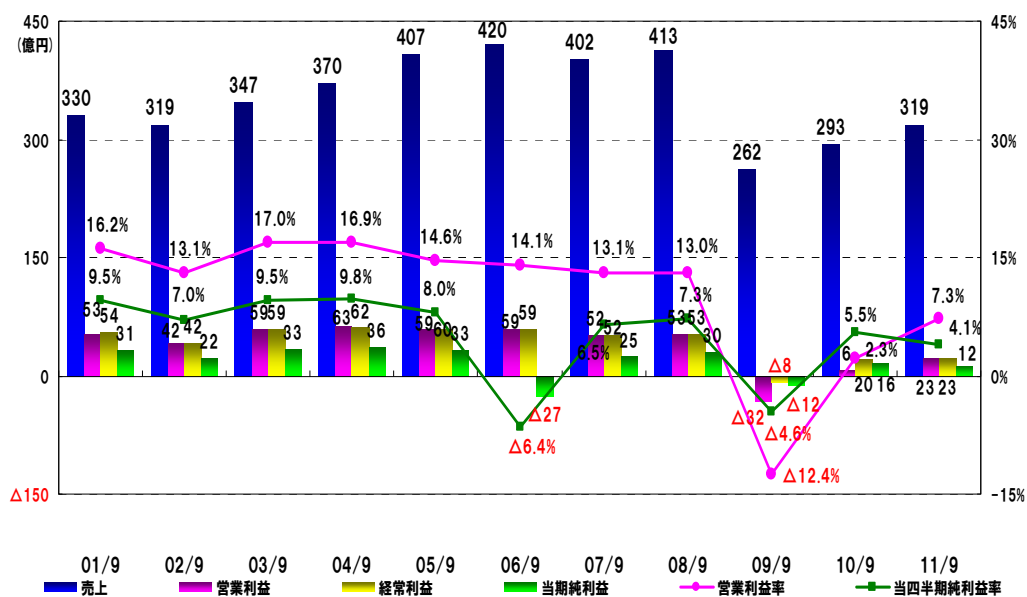
前回、前々回の説明会でもコメントしましたが、現在、市場は即戦力のエンジニアを求めているため、業務経験が無いまたは業務経験が非常に少ない、新卒、若年層のエンジニアの配属が非常に難しい状況です。

ここを打破する為に、新卒、若年層のエンジニアを場合によっては生産に近い業務領域まで下げて低レートで配属し、その後、半年、1年の実務経験に基づいて通常の業務領域にローテーションしていく方法を『特別スキーム』と呼んでいます。

こうした『特別スキーム』のエンジニアが3月末時点では158名いましたが、9月末では26名に改善している為、本来の事業領域における稼働人員数は実質的には175名増となっています。

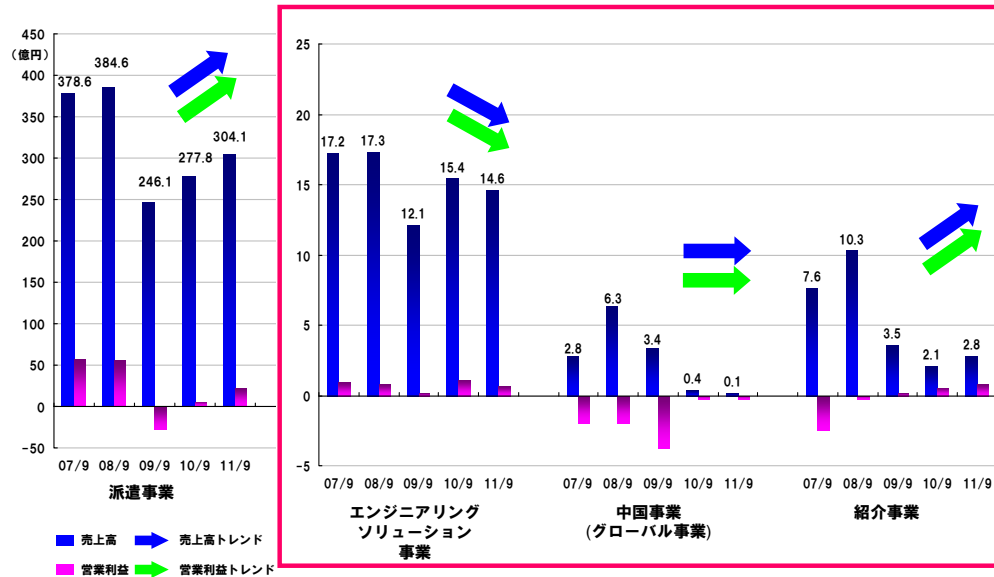
9月末の26名は、現時点ではほぼ全員を本来の通常の業務領域に配属可能な見通しが立っており、レートも通常のレート水準に戻る見通しです。

<業績推移【連結】：2012年3月期 第2四半期累計>



過去からの連結の業績の推移です。

<メイテックグループの4事業：2012年3月期 第2四半期累計>



派遣事業は、メイテックと子会社で技術者派遣事業を行っているメイテックフィルダース、一般登録派遣を行っているメイテックキャストの3社で構成しており、連結売上高の約95%を占め、主力の事業です。

エンジニアリングソリューション事業はコンピューターによる解析サービスやプリント基板の試作・量産サービスを行っています。

中国事業は、中国において中国の新卒エンジニアを半年間、我々の研修拠点で育成し、育成したエンジニアを日系メーカーに人材紹介する事業であり、新しいビジネスとして立ち上げています。

紹介事業は、国内で行ってる、エンジニアに特化した職業紹介事業です。

主力の派遣事業は、売上高・営業利益共に順調に回復しています。

エンジニアリングソリューションは僅かに売上高・営業利益が減少しました。

中国事業はほぼ横這い、紹介事業も主力の技術者派遣事業と並んで順調に改善をしています。

<グループ各社実績：2012年3月期 第2四半期累計>

(単位：百万円)

		売上高	営業利益	経常利益	当四半期純利益	
第2 四半 期累 計	派遣事業	メイテック	25,256	1,944	2,262	1,356
		メイテックフィルダーズ	4,113	240	242	145
		メイテックキャスト	1,160	26	26	16
	E/S事業	メイテックCAE	536	63	63	38
		アポロ技研グループ	924	2	17	△1
	中国事業	メイテック上海 他3社 *1	9	△34	△34	△34
	紹介事業	メイテックネクスト	283	80	80	80
		all engineer.jp	4	1	1	0
	連結		31,937	2,328	2,350	1,295

※E/S事業：エンジニアリングソリューション事業、紹介事業：キャリアサポート事業

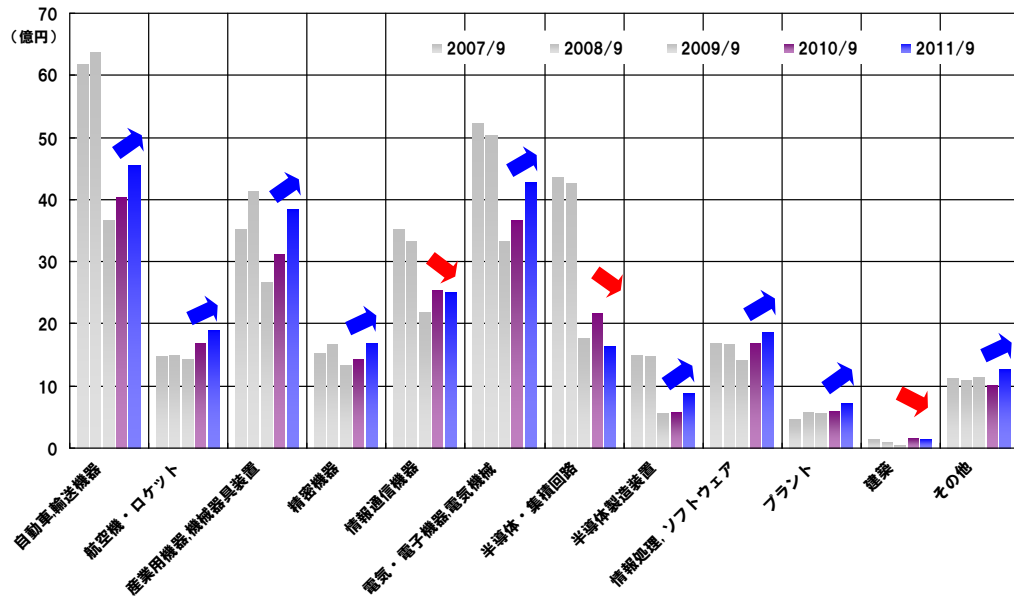
※連結相殺調整前

* 中国事業（グローバル事業）は、メイテック上海・メイテック西安・メイテック成都・メイテック上海人材の4社の合計です。

4つの事業領域における各社毎の業績の結果です。

営業利益を見ると、新たなビジネスモデルづくりに取り組んでいる中国事業以外は全て営業利益で当期も黒字を達成することが出来ました。

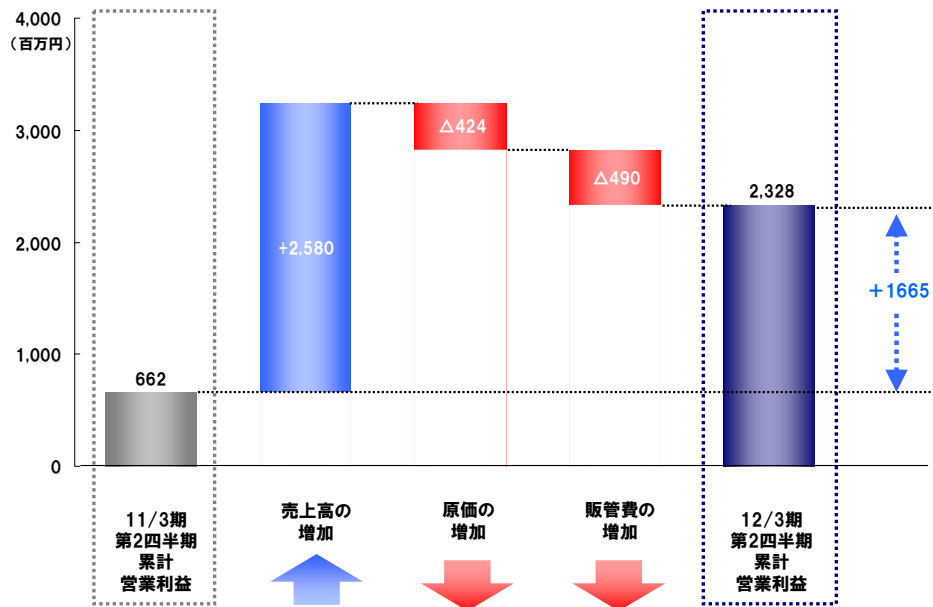
＜セグメント別売上高推移【MT単体】：2012年3月期 第2四半期累計＞



メイテック単体のセグメント別の売上高の推移です。

前期は、危機からの回復の過程もあり、全分野が前年同期比で増収の結果でしたが、当期は情報通信、半導体集積回路、建築の3分野が、前年同期比で減収となっている点に変化しています。

<営業損益前年同期比較【連結】：2012年3月期 第2四半期累計>



連結営業損益の、前年同期比較です。

前期と当期の営業利益は16億65百万円のプラスですが、その要因を記載しています。

プラス要因が1つ、マイナス要因が2つです。

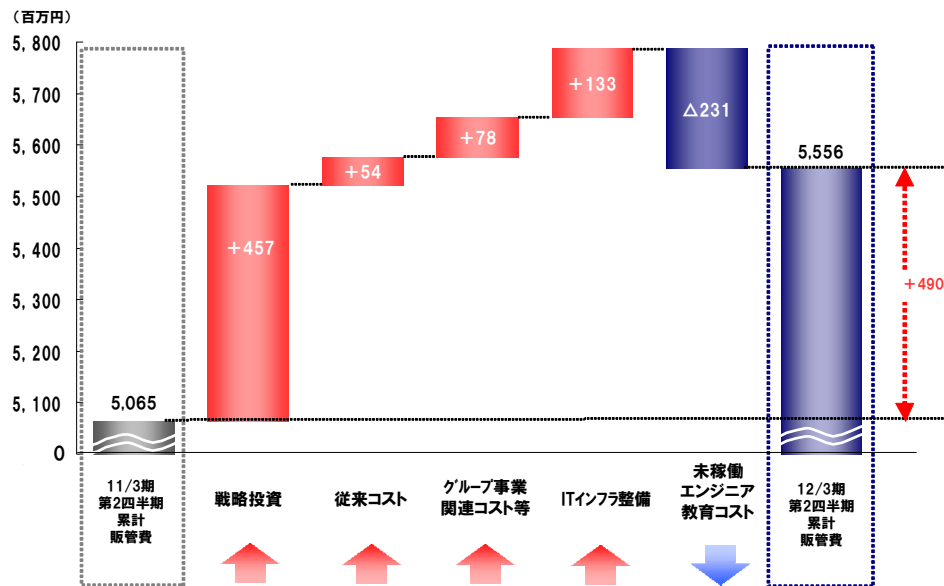
まず売上高の増加によって、営業利益を25億80百万円押し上げる効果がありました。

一方で、利益を下げる要因の1つは、売上高の増加に伴い、主にエンジニアの
人件費が増えることによる原価の増加4億24百万円です。

もう1つは、販管費が4億90百万円増えています。

詳細は、次のページに記載しています。

<販管費前年同期比較【連結】：2012年3月期 第2四半期累計>



連結販管費の増加要因で、一番大きいものは戦略投資です。

これは前回の説明会で申し上げましたが、今後の成長の為の戦略的投資です。

具体的には、採用戦略に伴う採用コスト等がここに含まれています。

その他、コスト増の要因が3つあります。

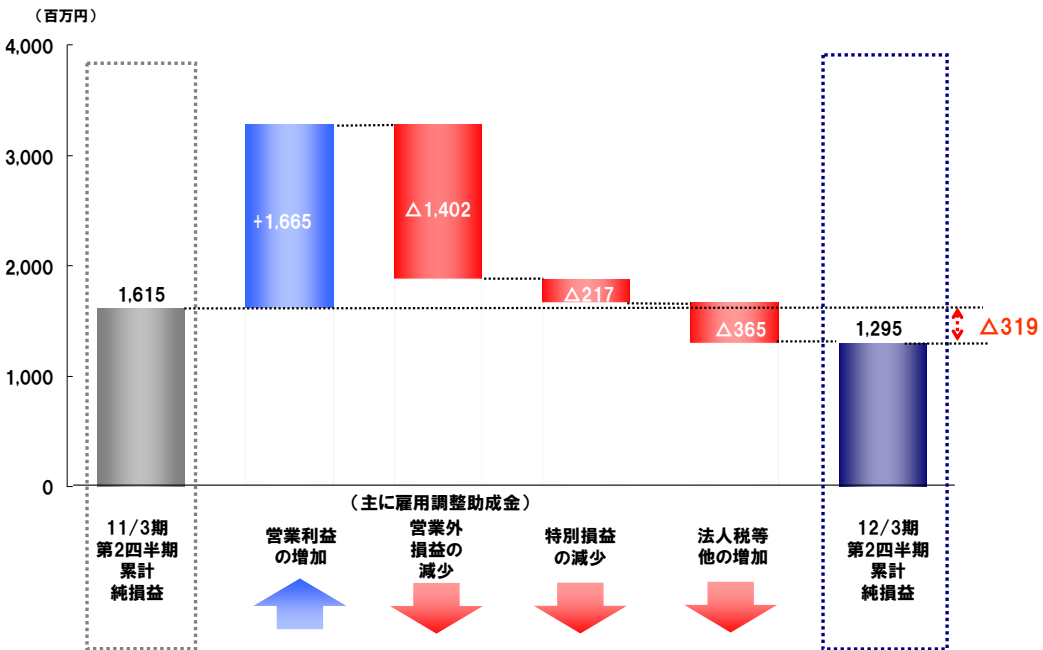
従来のオペレーションコスト、グループ事業関連コスト、ITインフラ整備のコストがそれぞれ増加しています。

一方で、コスト減の要因が1つあり、未稼働エンジニアの教育コストが2億31百万円減少しています。

これは稼働率の改善に伴い教育訓練を行う未稼働エンジニアが減少する為、その教育訓練コスト、具体的には主に研修講師の人的費が減少しています。

差し引きで、4億90百万円の増加です。

＜当期純損益前年同期比較【連結】：2012年3月期 第2四半期累計＞



連結当期純利益の前年同期比較です。

プラス要因が1つ、マイナス要因が3つあります。

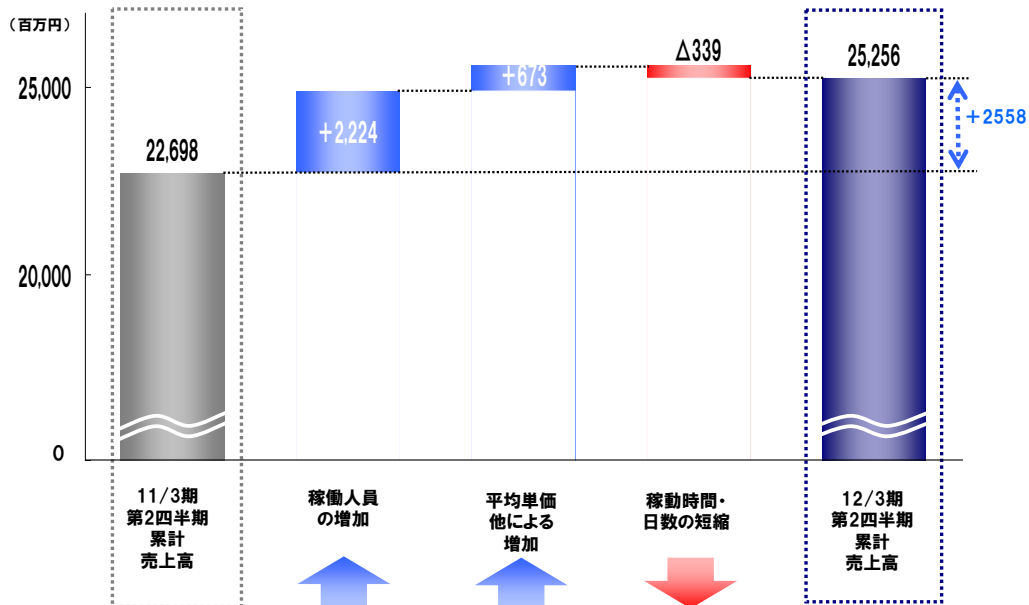
プラス要因は、営業利益の増加、16億65百万円のプラスです。

マイナス要因は、雇用調整助成金が当期減少したことに伴う営業外損益の減少が14億2百万円、更に特別損益の減少2億17百万円、そして法人税等の増加3億65百万円です。

結果として、前年同期比で3億19百万円、当期純利益が減少しています。

Ⅲ.単体業績の概況

<売上高前年同期比較【MT単体】：2012年3月期 第2四半期累計>



メイテック単体の業績の概況です。

まず売上高ですが、メイテック単体の売上高は、前年同期比で25億58百万円の増収です。

プラス要因が2つ、マイナス要因が1つです。

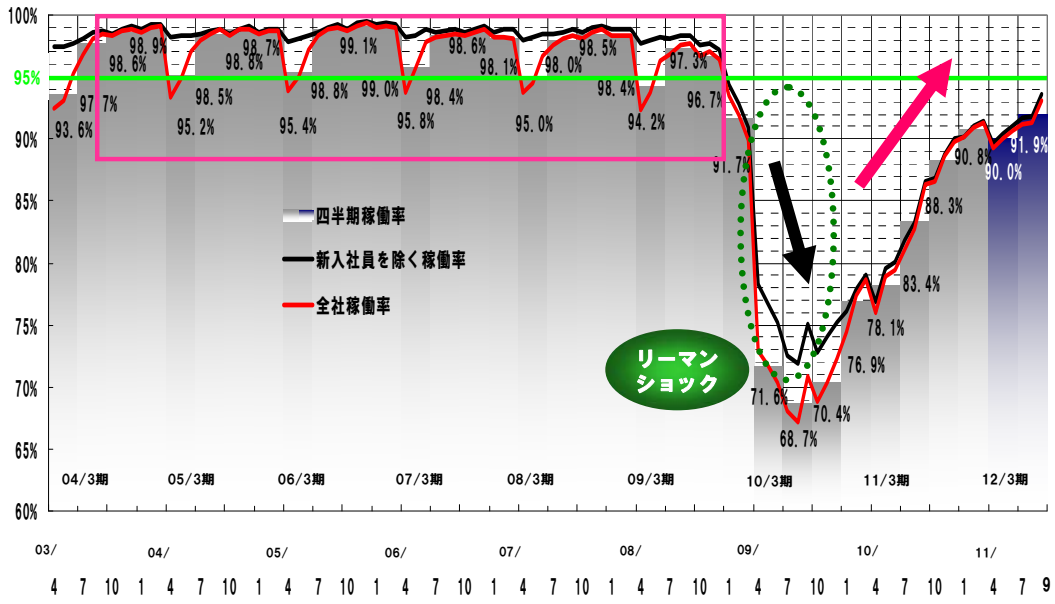
一番大きい要因が、稼働率が大きく改善したことによる稼働人員の増加で、22億24百万円売上高を押し上げています。

メイテック単体で申し上げますと、前上期の稼働率が80.7%、当上期の稼働率が90.9%ですので、約10%の稼働率の改善が、増収に反映されています。

もう1点、平均単価等による増加6億73百万円ですが、これは『特別スキーム』のエンジニア数の減少によるレートの改善が売上高を押し上げています。

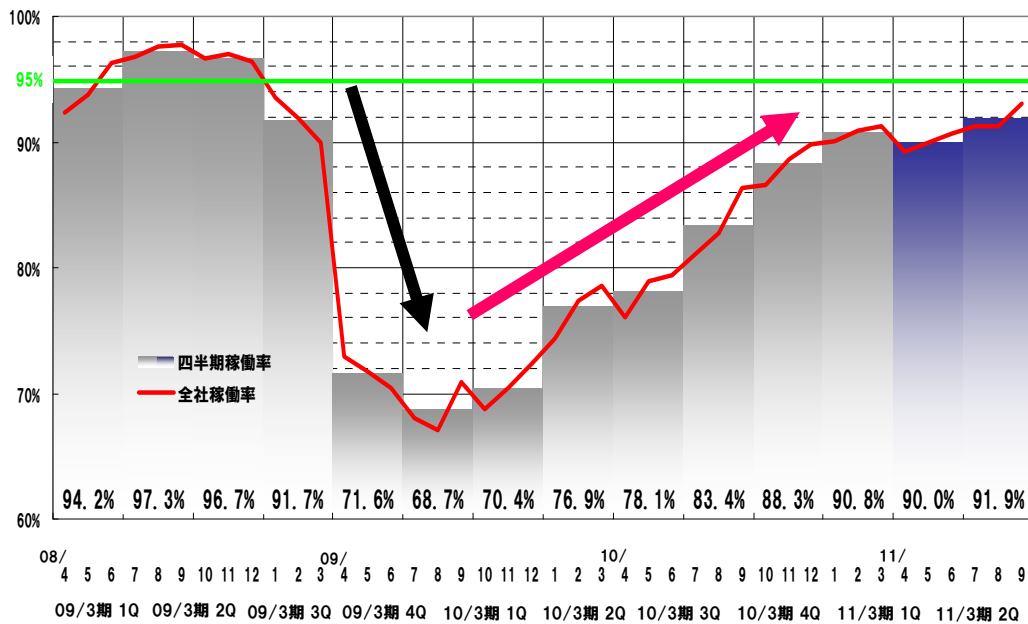
マイナス要因は、稼働時間・日数の短縮による3億39百万円です。電力不足等によって、お客様が休日を増やされたり、残業規制等により作業時間を短縮されたことが影響しています。

<稼働率推移【MT単体】>



過去10年間のメイテック単体の稼働率のグラフです。

<稼働率推移【MT単体】08/4~>



リーマンショック以降の大きな稼働率の変動部分を、大きくクローズアップしています。

2009年4月、リーマンショック明けの新年度開始時に、大きく稼働率が落ち込みました。

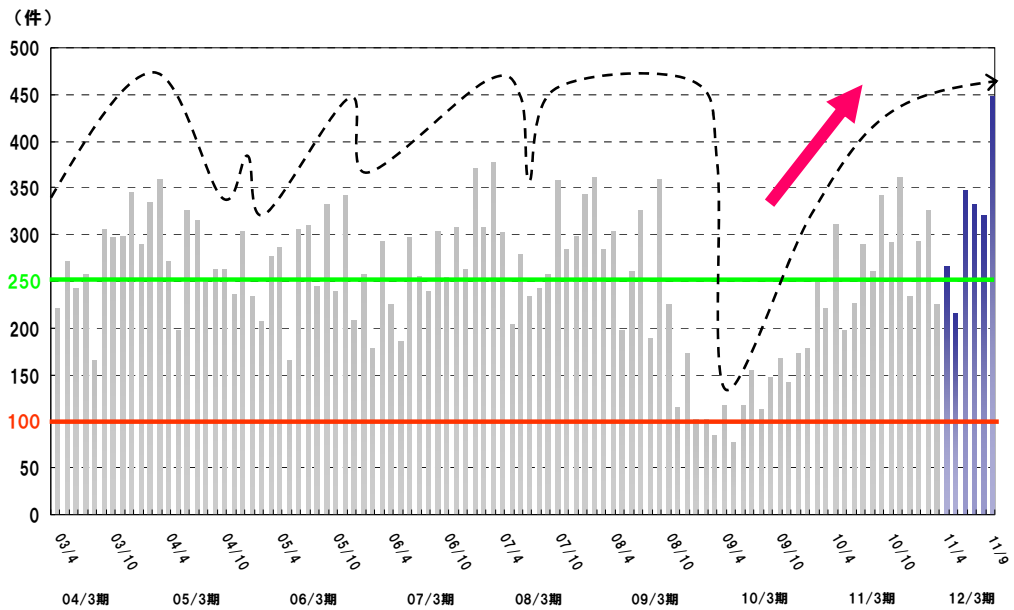
そして一番落ち込んだ2010年3月期2Q、68.7%が底でした。

次の2010年3月期3Q以降、前期4Qまで6四半期連続で四半期単位で稼働率を改善することが出来ましたが、残念ながら当期1Qでは前期4Qの稼働率を若干下回りました。

これは、年度変更の契約終了数が想定よりも約70名多かった影響です。

しかしながら、当期2Qは稼働率を91.9%まで改善させましたので、前期4Qの90.8%を越える水準まで持ち直しています。

<月間新規受注推移【MT単体】>

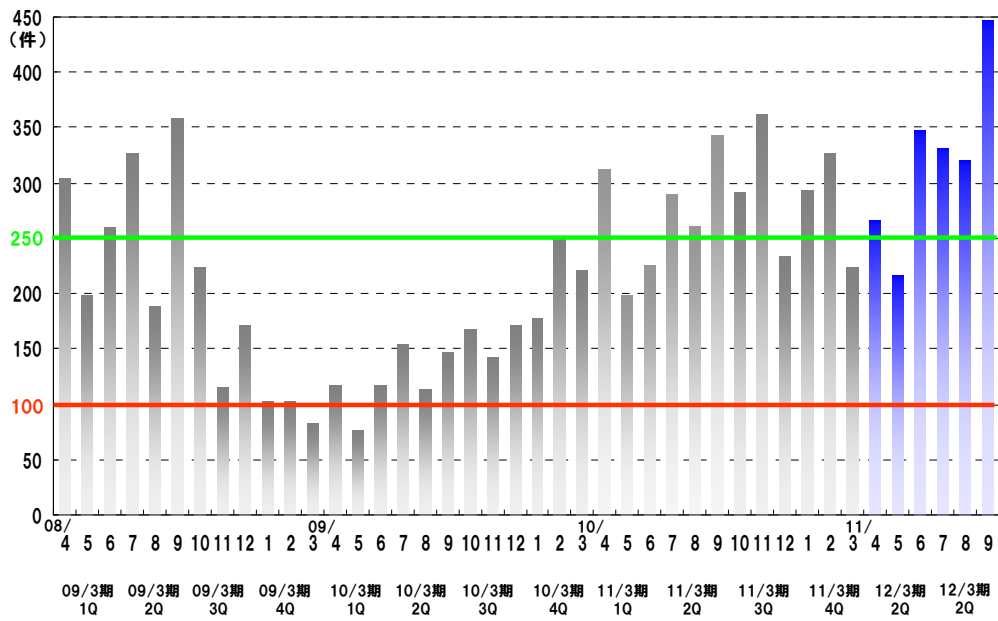


月間の新規受注の推移です。

これは稼働率よりも先行する、当社の業績の先行指標になる数値です。

これもリーマンショックで落ち込んでいます。

<月間新規受注推移【MT単体】08/4~>



新規受注は、月間受注数が250件を超える水準であれば堅調と見ていることを常々コメントさせていただいています。

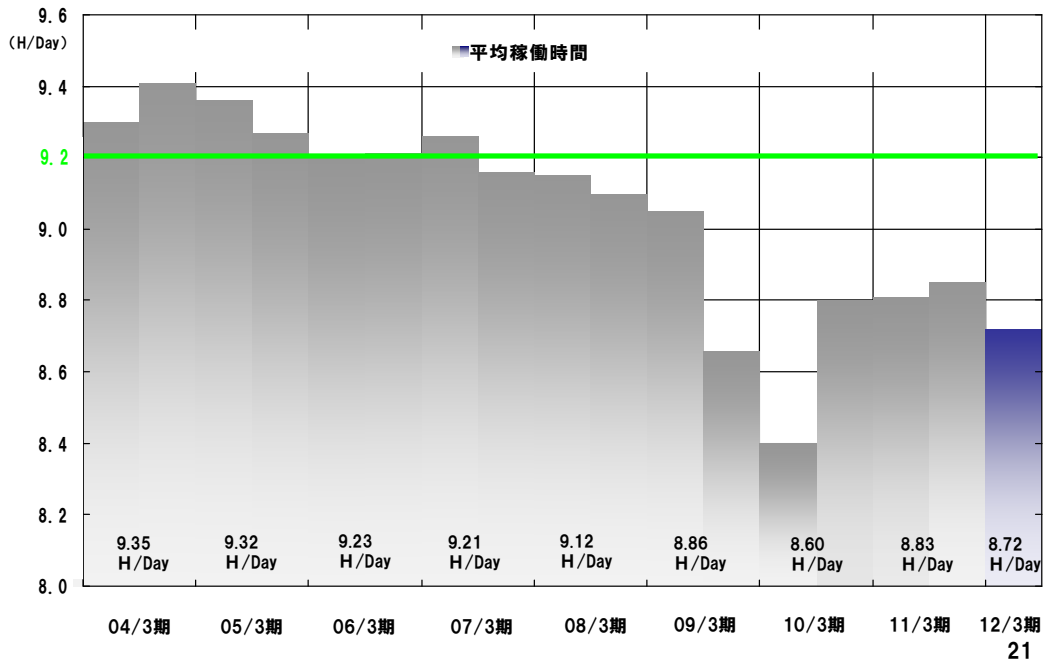
このグラフから、概ね堅調な水準に受注数が戻っていると見えます。

ただし、前回もコメントしましたが、リーマンショック前は、非常に市場環境が良かったので、積極的な営業活動をせずにお客様から頂いた受注で250件を超えていました。

しかしながら現在の受注数は、積極的にお客様に営業活動を行った結果獲得した受注数ですので、中身は相当違います。

水準としては堅調ではありますが、現時点では、市場自体がリーマンショック前のような好調な状態に戻ったと見ていません。

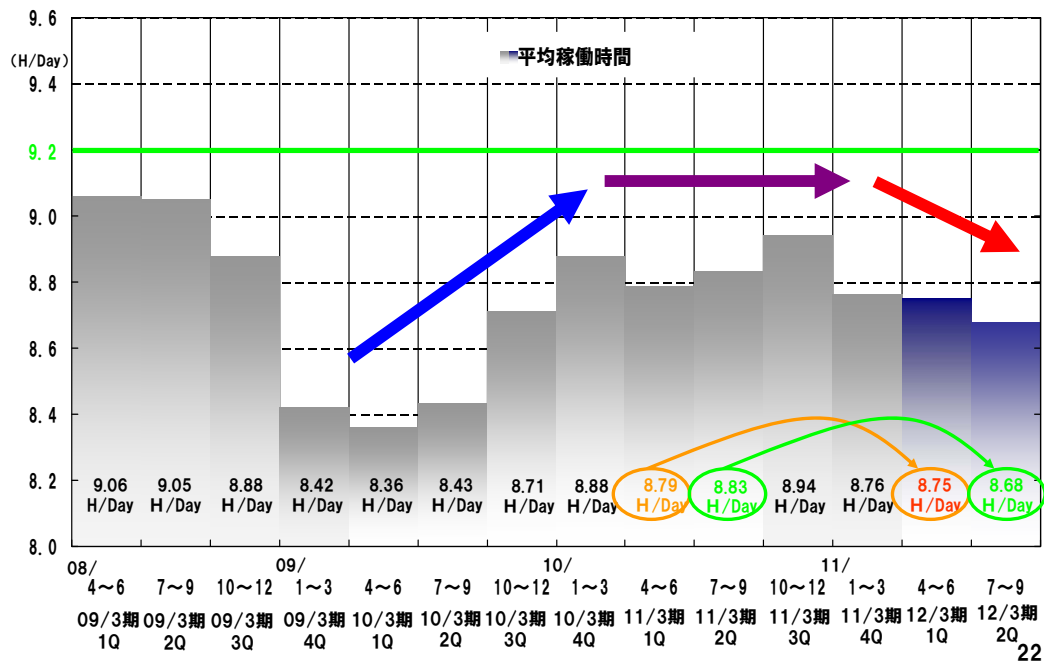
<稼働時間推移【MT単体】>



稼働時間の推移です。

これも稼働率と同じようなトレンドです。

<稼働時間推移【MT単体】08/4~>



リーマンショックで落ち込んだ稼働時間が、稼働率と同じように改善していきましたが、稼働時間は、8.8時間/日ないし、8.9時間/日の所で高止まっていました。

そして、震災の影響で稼働時間が下がった訳ですが、オレンジが前期1Qと当期1Qの比較、グリーンが前期2Qと当期2Qの比較です。

1Qで比較しますと、前年同期比で0.04時間/日の減少です。

2Qの比較では0.15時間/日の減少と、1Qの落ち込みよりも2Qの落ち込みが大きくなっています。

2Qは電力需要のピーク時期ですので、特に自動車産業を中心に休日を増やされたり残業規制を厳しくされるお客様が多かったことが、当社の稼働時間に減少影響として出ています。

IV. 業績予想

＜下期の市況の想定＞

1. 為替動向等の不透明要因が多いものの、製造業各社の技術開発投資が、緩やかながら持続する。
2. しかしながら、コストを抑制する動向が、継続的に強くなっていることから、契約終了数も、期初予想よりも多くなる。
3. グループ各社の事業も、メイテック単体と同様の見通し

上期の業績を踏まえた下期の市況の想定ですが、3つコメントします。

1つ目は、為替動向等の不透明要因が多いものの、製造業各社の技術開発投資が、緩やかながら持続することです。

前記6ページのグラフでは、速報値ですが、10月の契約の開始と終了が約300件とほぼ同水準であり、この下期の立ち上がりは大きな動きはありませんでした。

2つ目は、コストを抑制する動向が、継続的に強くなっていることから、契約終了数も、期初予想よりも多くなることです。

契約の短期化に伴い、契約終了数が期初予想よりも多くなる状況が、上期と同様、下期も続く見方をしています。

3つ目は、グループ各社の事業も、お客様はほぼ同じですので、メイテック単体と同様の見通しをしています。

<業績予想：2012年3月期通期>

(単位:百万円)		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	通期	64,000	4,200	4,200	2,400
	前期実績	61,790	2,620	4,588	3,690
	対前期比 増減率	3.6%	60.3%	△8.5%	△35.0%
単体	通期	50,500	3,500	3,800	2,300
	前期実績	48,260	1,724	3,550	2,141
	対前期比 増減率	4.6%	103.0%	7.0%	7.4%

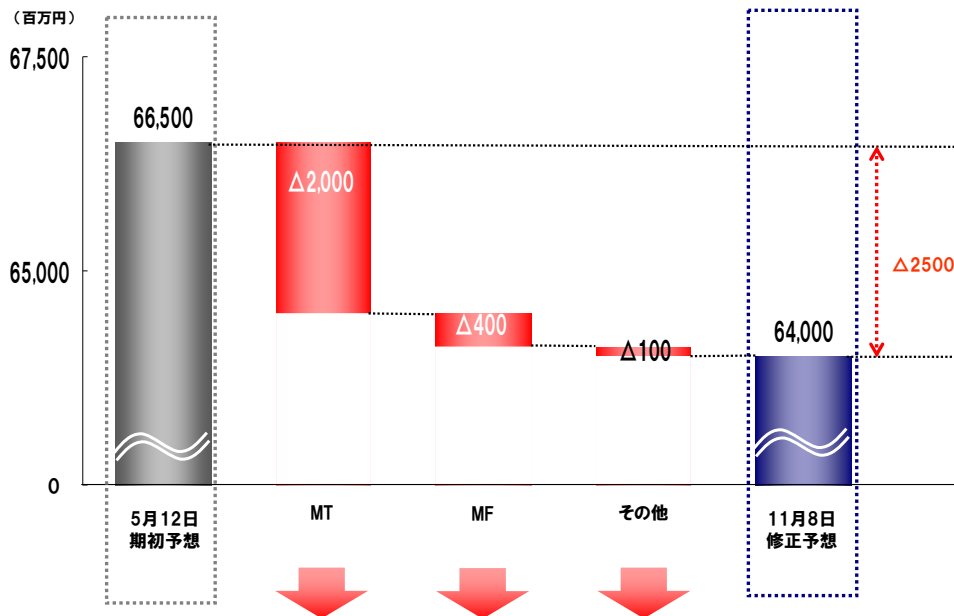
(単位:百万円)		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2011年 5月12日	連結	66,500	4,700	4,700	2,600
期初予想	単体	52,500	3,900	4,200	2,400

2012年3月期通期の業績予想は、前記の想定から、記載のように下方に修正しています。

連結売上高665億円を640億円へ25億円下方修正しています。

連結営業利益は47億円から42億円へ、経常利益は47億円から42億円へ、当期純利益が26億円から24億円へそれぞれ修正し、単体もほぼ同様に下方修正しています。

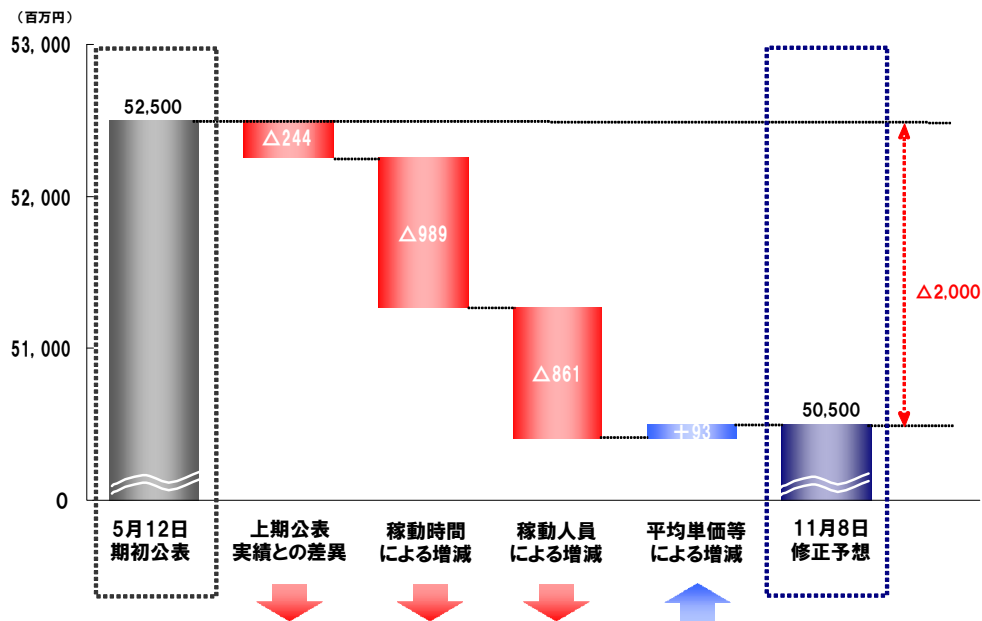
<業績予想 売上高【連結】：2012年3月期 通期>



連結売上高の下方修正額の25億円を事業会社毎の内訳で申し上げますと、メイテックが20億円、メイテックフィルダースが4億円、その他のグループ会社で1億円、下方修正しています。

メイテックとメイテックフィルダース、主力の技術者派遣事業が下方修正の主要因です。

<業績予想 売上高【MT単体】：2012年3月期 通期>



メイテック単体の売上高を20億円下方修正する要因を4つ記載しています。

マイナス要因が3つ、プラス要因が1つです。

まず1つ目、上期公表実績との差異、これは期初の上期公表目標に対して未達成部分が2億44百万円ありますので、これをそのまま予想に反映しています。

2つ目と3つ目が大きな要因です。

稼働時間による減少、稼働人員による減少、この2つがそれぞれ9億89百万円、8億61百万円のマイナス要因です。

上期のお客様の休日変更と作業時間の抑制による稼働時間の減少が、下期も続く見方をしています。

稼働人員による増減は8億61百万円のマイナスと見っていますが、中途採用数の下方修正を反映をしています。

最後に平均単価等によるプラス要因が93百万円。

前記のとおり、『特別スキーム』の減少によるレート改善が下期にもプラスの効果として見えています。

<業績予想の前提条件【MT+MF】：2012年3月期>

			MT	MF
稼働率	上半期	期初予想	89.3%	93.2%
		実績	90.9% (+)	94.4% (+)
	下半期	期初予想	91.9%	95.6%
		修正予想	92.9% (+)	94.4% (Δ)
	通期	期初予想	90.6%	94.4%
		修正予想	91.9% (+)	94.4% (-)
稼働時間	上半期	期初予想	8.87h/day	9.02h/day
		実績	8.72h/day (Δ)	8.70h/day (Δ)
	下半期	期初予想	8.89h/day	8.97h/day
		修正予想	8.66h/day (Δ)	8.71h/day (Δ)
	通期	期初予想	8.88h/day	9.00h/day
		修正予想	8.69h/day (Δ)	8.71h/day (Δ)
新卒採用 (2012年4月1日入社見込み)		期初予想	250名	150名
		予定	228名 (Δ)	184名 (+)
中途採用		期初予想	300名	150名
		修正予想	100名 (Δ)	100名 (Δ)

※()内は期初予想に対する傾向 28

メイトックとメイトックフィルダーズの上期、下期、通期の稼働率と稼働時間の実績と修正予想を記載しています。

メイトックの稼働率は、上期、下期、通期とも期初予想よりプラスに想定を変えており、メイトックフィルダーズもほぼ同様です。

一方、稼働時間は下期も、上期の影響をそのままに、下方修正しています。

下段では、新卒採用と中途採用の状況を説明しています。

新卒採用(2012年4月入社予定)は、MTとMFの合計で400名の想定に対し412名ですので若干のプラスです。

メイトックでは、内定通知の段階では250名でしたが、内定辞退を反映した結果、228名となりました。当期は、創業以来初めて夏期休暇の時点で新卒採用目標をほぼ達成し、非常に順調な採用が出来たと思っています。

これは、リーマンショック以降の厳しい状況下でも雇用を守ったことが、非常に高い評価を頂いたからだと思っています。

メイトックフィルダーズが期初予想を超過しているのは質の良い採用が出来ましたので、上積みする意思決定を行った為です。

一方で、中途採用はメイトック100名、メイトックフィルダーズ100名へ下方修正をしています。

前期2月にリーマンショック後の危機を脱し、3年ぶりに中途採用を再開する中で、震災の発生や、8月に米国債の格下げやヨーロッパの財政不安が大きくクローズアップされ、相当な先行きリスクを想定しなければならぬと認識し、中途採用は8月に一旦休止としました。

その後、9月に採用活動を再開していますが、意図的に採用を絞る訳ではなく、現実の採用可能数を厳しく見て、数値を再設定しています。

<グループ各社予想：2012年3月期通期>

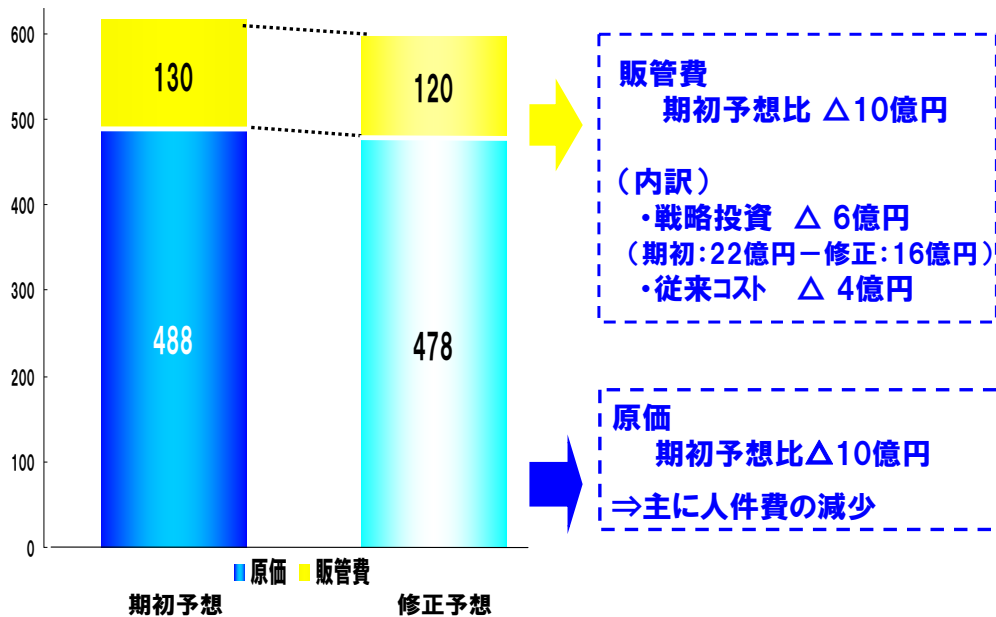
(単位：百万円)		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	
通期	派遣事業	メイテック	50,500	3,500	3,800	2,300
		メイテックフィルダース	8,200	450	450	270
		メイテックキャスト	2,300	50	50	30
	E/S事業	メイテックCAE	1,100	110	110	70
		アポロ技研グループ	1,800	10	20	10
	中国事業	メイテック上海 他3社 *1	25	△ 65	△ 65	△ 65
	紹介事業	メイテックネクスト	560	120	120	120
		all engineer.jp	10	0	0	0

※1：中国事業（グローバル事業）は、メイテック上海・メイテック西安・メイテック成都・メイテック上海人材の4社の合計です。

各社毎の業績予想値です。

<コストの見直し【連結】：2012年3月期通期>

(億円)



30

コストの見直しです。

青い部分が原価、黄色い部分が販管費です。

原価は、期初予想比10億円減少していますが、採用数を抑制しますので人件費が若干セーブされます。

販管費は、トータルで10億円削減します。

戦略投資は、期初では22億円を想定していましたが、16億円に修正し、6億円削減します。

従来コストも4億円削減します。

これらコストの見直しを業績見通しに反映しています。

V. 配当

＜配当予想：2012年3月期＞

(基準日)	年間配当金				合計
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	
2012年3月期	/	29円00銭	/	予想 29円00銭	58円00銭
2011年3月期	/	0円00銭	/	27円50銭	27円50銭

・業績予想を踏まえ、基本方針に従い、配当は最低水準である連結株主資本配当率(DOE)5%相当とすることから、配当予想の見直しは行なっておりません。

※当期純利益(業績予想値)の50% < 株主資本配当率(DOE)の5%

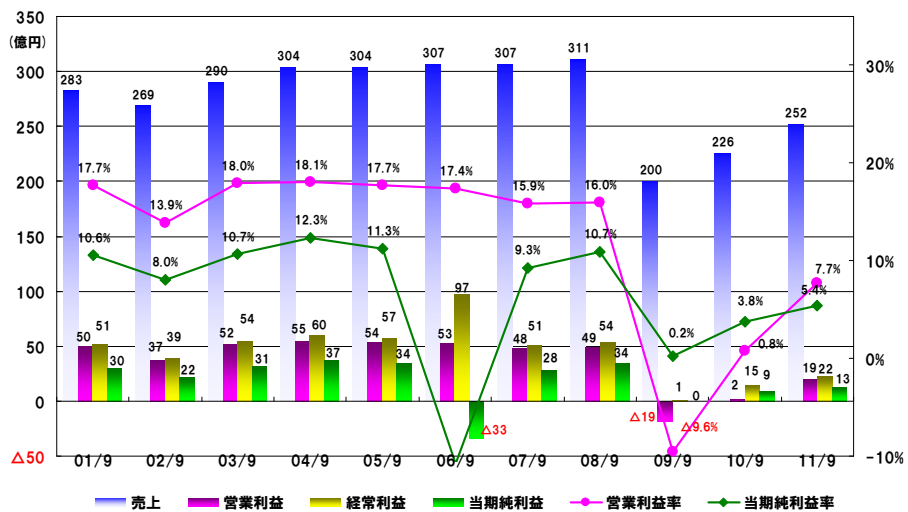
最後に、配当についてです。

中間配当29円、期末配当29円、通期58円とする配当予想は、今回、見直しを行っていません。

2011年3月期決算発表時の説明のとおり、基本的には、当期純利益の50%を配当原資とする方針ですが、当期純利益の50%が株主資本配当率(DOE)5%を下回った場合は、DOE5%を配当原資とする考え方をしている為、今回の業績見直しの影響はございません。

人と技術で次代を拓く
MEITEC
メイテックグループ

＜業績推移【MT単体】：2012年3月期 第2四半期累計＞



＜本業【技術者派遣事業】の概況：2012年3月期 第2四半期累計＞

			MT+MF+ CAE	MT+MF	MT	MF	CAE
第2 四 半 期 累 計	稼働率 (全体)	実績	-	91.5%	90.9%	94.4%	-
		前期実績	-	82.1%	80.7%	88.3%	-
	稼働時間	実績	-	-	8.72h/day	8.70h/day	-
		前期実績	-	-	8.81h/day	8.86h/day	-
	期末技術 社員数	実績	6,750人	6,668人	5,498人	1,170人	82人
		前期実績	7,058人	6,971人	5,746人	1,225人	87人

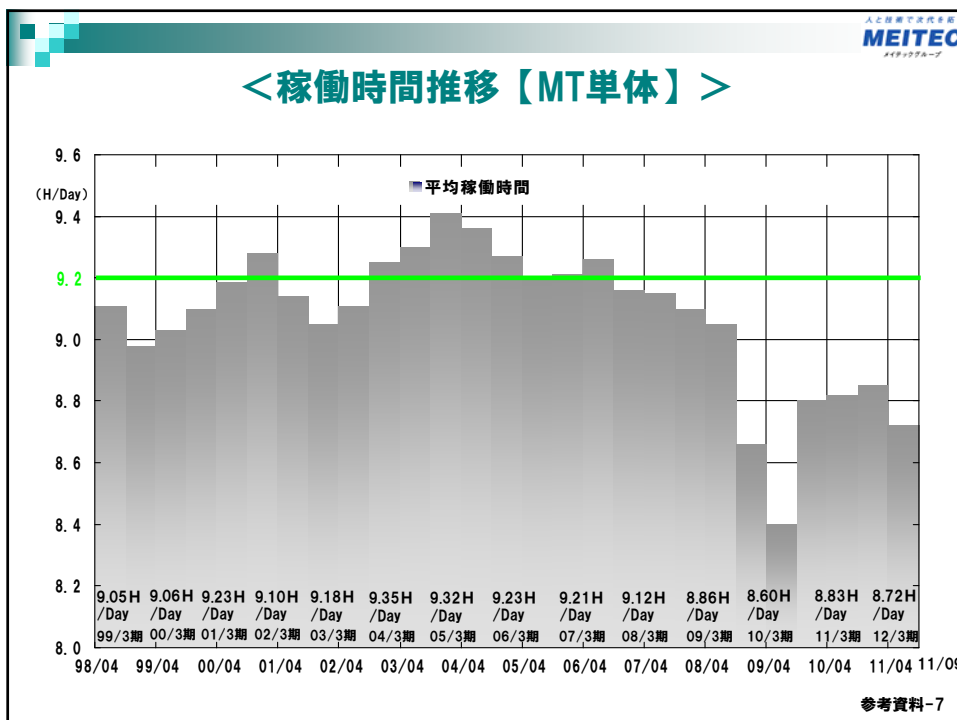
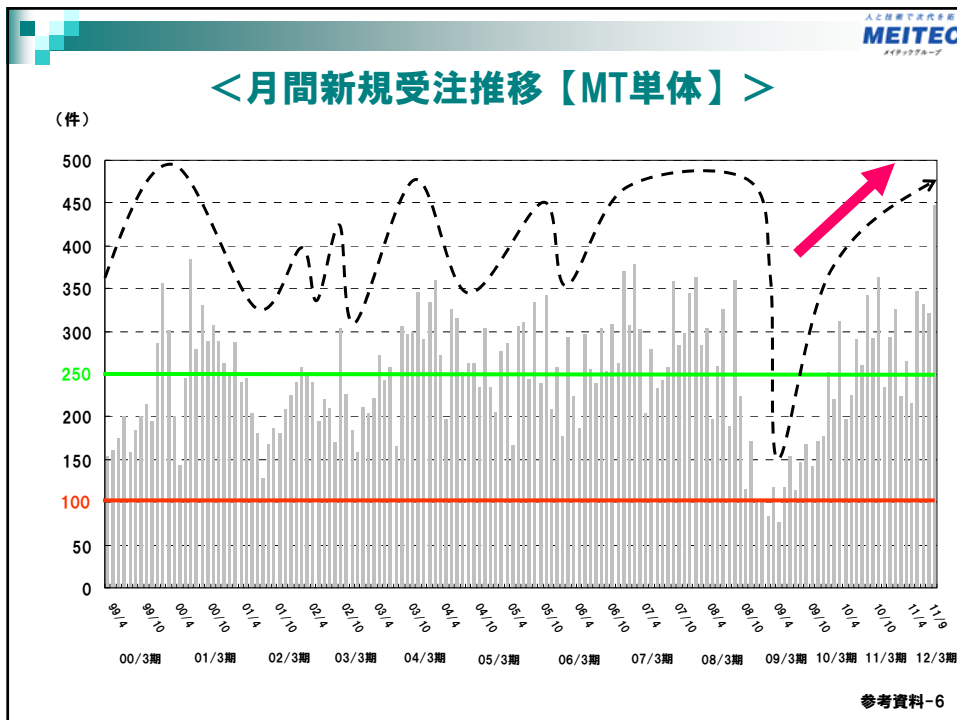
参考資料-2

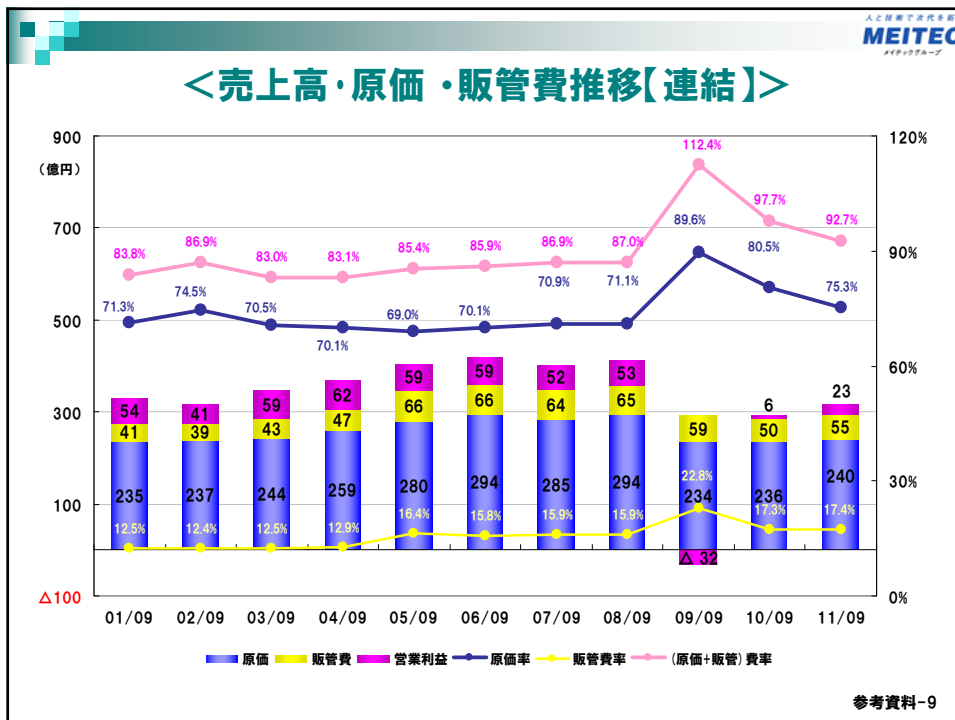
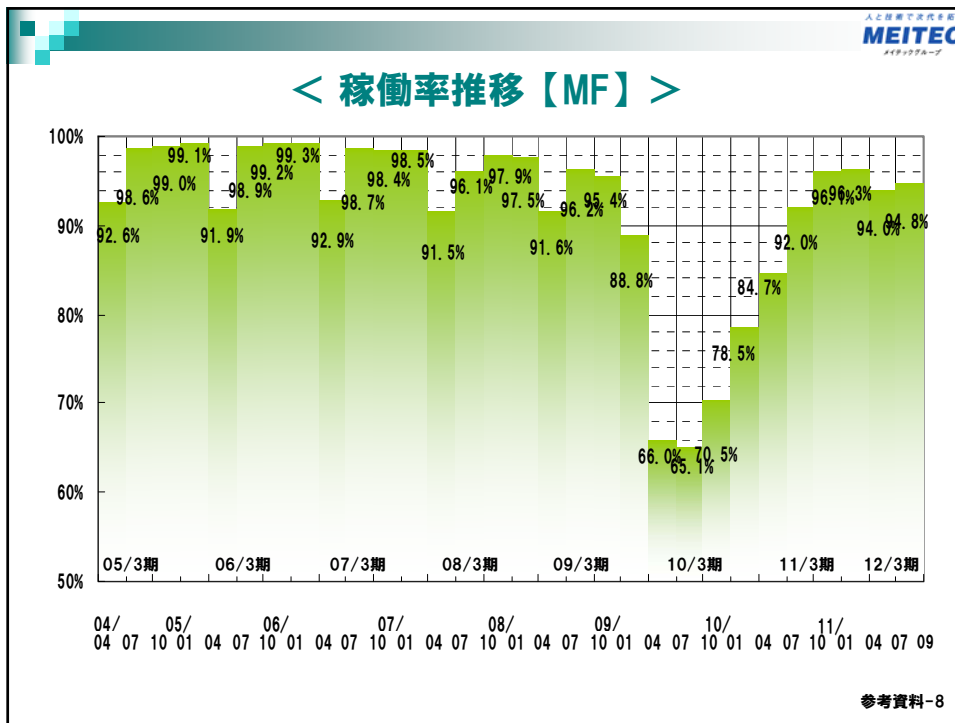
＜セグメント別売上高推移【MT単体】：2012年3月期第2四半期累計＞

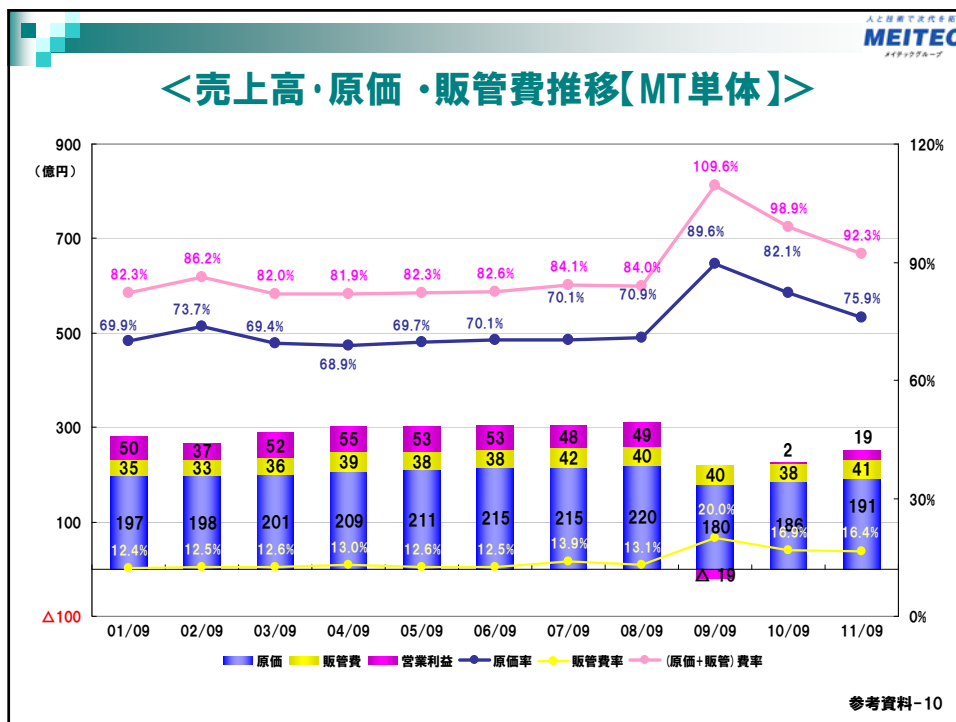
(単位:百万円)

セグメント名	2008年 3月期 第2四半期	2009年 3月期 第2四半期	2010年 3月期 第2四半期	2011年 3月期 第2四半期	2012年3月期第2四半期			
	売上高				売上高	売上 構成比	対前年 増減額	対前年 増減率
自動車、輸送機器関連(航空機を除く)	6,190	6,357	3,650	4,046	4,563	18.1%	+516	+12.8%
航空機・ロケット関連	1,478	1,484	1,427	1,685	1,894	7.5%	+208	+12.4%
産業用機器、機械器具および装置関連	3,518	4,135	2,671	3,126	3,834	15.2%	+708	+22.7%
精密機器関連	1,541	1,670	1,342	1,431	1,697	6.7%	+266	+18.6%
情報通信機器関連	3,522	3,320	2,188	2,545	2,504	9.9%	△ 40	△ 1.6%
電気・電子機器、電気機械器具設計	5,235	5,029	3,322	3,661	4,268	16.9%	+606	+16.6%
半導体・集積回路関連	4,363	4,248	1,776	2,167	1,633	6.5%	△ 534	△ 24.7%
半導体製造装置関連	1,489	1,474	550	574	875	3.5%	+301	+52.4%
情報処理、ソフトウェア開発・運用	1,689	1,665	1,418	1,700	1,863	7.4%	+162	+9.6%
プラント関連	465	577	565	599	706	2.8%	+106	+17.8%
建築関連	146	97	46	158	141	0.6%	△ 16	△ 10.5%
その他	1,112	1,103	1,142	1,006	1,277	5.1%	+271	+26.9%
合計	30,753	31,163	20,098	22,698	25,256	100.0%	+2,557	+11.3%

参考資料-3







人と笑顔で未来を拓く
MEITEC
メイトックグループ

<株主セグメント別保有状況>

株主セグメント	2011年9月30日現在			
	株主数(名)	構成比	所有株式数(株)	構成比
銀行	3	0.04%	875,501	2.49%
信託銀行	21	0.31%	6,297,500	17.94%
生保・損保会社	16	0.23%	4,165,183	11.87%
証券金融・その他金融会社	4	0.06%	23,260	0.07%
証券会社	35	0.51%	195,080	0.56%
事業会社・その他法人	116	1.69%	322,892	0.92%
外国法人・外国人	143	2.09%	17,368,869	49.48%
個人その他	6,516	95.07%	5,851,715	16.67%
合計	6,854	100.0%	35,100,000	100.0%

参考資料-11